

2018(平成30)年度

大学院学生募集要項

博士前期課程・博士後期課程
(外国人留学生募集要項)

青山学院大学
大学院理工学研究科

理工学研究科及び入学試験情報の概要は、
青山学院大学の公式ホームページ (<http://www.aoyama.ac.jp/>) で紹介しています。

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

青山学院大学の理念

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、神と人
とに仕え社会に貢献する「地の塩、世の光」としての教育研究
共同体である。

本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって自ら
問題を発見し解決する知恵と力をもつ人材を育成する。それは、
人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。

本学のすべての教員、職員、学生は、相互の人格を尊重し、
建学以来の伝統を重んじつつ、おのこの立場において、時代
の要請に応えうる大学の創出に努める。

個人情報の取り扱いについて

出願に際してお知らせいただいた住所、氏名、生年月日等の個人情報は、
①願書受付、②入学試験実施、③合格発表、④入学手続きとこれに付随す
る業務を行うために利用します。

アドミッションポリシー

《博士前期課程・修士課程》

本学大学院博士前期課程・修士課程では、各専攻が求める人材を、さまざまな形式の入学試験を通して以下の能力等に照らして受け入れる。

- ・当該専攻の研究に必要な専門知識・専門技能
- ・課題に対して論理的に思考、判断し、自身の考えを的確に口頭で、かつ文章によって表現する能力
- ・本大学院の特徴を理解し、大学院における学びを追求し、社会のために還元する意欲・関心・態度

《理工学研究科》

【基礎科学コース】

①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、物理科学または数理サイエンスを学び研究するための基礎学力がある。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、物理学・数学に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

【化学コース】

①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、化学の基礎が理解できる。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、化学および科学技術と社会との関係に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

【機能物質創成コース】

①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、材料科学の基礎が理解できる。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、材料科学に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社

会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

【生命科学コース】

①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、生物学、分子生物学、生化学、生物物理学、生命情報科学、生体分析化学などの基礎が理解できる。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、生命科学に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

【電気電子工学コース】

①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、電気電子工学の基礎が理解できる。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、電気電子工学及び関連分野に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

【機械創造コース】

①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、機械工学の基礎が理解できる。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、ものづくりに興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

【知能情報コース】

①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、情報テクノロジー関連分野の基礎が理解できる。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表

現し、伝えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、情報テクノロジーに興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

【マネジメントテクノロジーコース】

①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、経営システム工学の基礎が理解できる。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、マネジメントテクノロジーに興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

理工学研究科および各専攻の教育研究上の目的・カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーは、以下の本学ウェブサイトにてご確認ください。

http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_science/

青山学院大学大学院理工学研究科 教育研究上の目的

人材養成上の目的

人類世界の存続と、更なる発展を可能とするために、豊かな自然環境の保全と平和で活力ある社会環境の創生が求められている。これらの理想を実現するためには理学と工学に基礎を置いた“科学・技術”の革新と展開が不可欠である。このような社会的要請に応えうる人材は、関連する専門分野における確たる基礎力の上に築かれた深い洞察力と高い実行力を有するだけでなく、その周辺の学問分野も含めて広く人類社会を俯瞰する視野と自然環境に対する謙虚な姿勢を堅持している必要がある。

理工学研究科（以下「本研究科」という。）では、キリスト教の精神に基づいた本学の行う教育基盤に立って人格を陶冶し、専門の学術の教授・訓練を通して精深な学識と研究能力を養うとともに、堅実な社会人として国際的にリーダーシップを発揮し、「地の塩、世の光」として文化の発展・創生に寄与し得る人物の養成を目的とする。

博士前期課程では、学部教育における人間形成のための幅広い教養並びに専門的教養基盤に立って、専攻分野における基礎力・応用力の充実はもちろんのこと、研究分野に関わる精深な学識と研究への真摯な姿勢と能力を養う。

博士後期課程では、前期課程での教育成果の上に、独創的研究を通して従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の発展・創生に寄与するとともに、専門分野におけるこれからの研究を先導し得る能力を養う。

学生に修得させるべき能力等の教育目標

博士前期課程では、質の高い専門科目及び社会への視野を広めるための専門科目に加えて実践的英語教育科目をバランスよく配置することにより、専門分野における深い知識と応用力ばかりでなく、国際的な場で研究を発表し討論する語学力と社会及び環境に対する広い視野や高い倫理観に基づく判断力とを同時に養成する。また、修士論文の研究指導を通して問題解決能力と問題発見能力を身につけさせることを目標とする。

体系的な教育の課程

これからの科学技術の発展を担う人材は、各分野における深い専門知識と他の専門分野の素養を併せ持ち、幅広い視野に立って研究を遂行し、応用力を発揮できる人物でなければならない。本研究科では、そのような特性を持った人材を育成すべく、従来の学問分野の壁を取り去り、1専攻8専修コースの構成にしている。授業科目においても、専攻共通科目として、科学技術英語、科学技術倫理、環境、福祉などの、視野の拡大と優れた人格形成に有用な科目を配置している。1専攻8専修コースの構成により、

- (1) 大学における卒業学科に関わらず、興味を持つコースに進学できる。
- (2) 理工学専攻の共通科目と専修コース科目及び他コース科目をバランスよく履修できる。
- (3) 従来の学問分野の壁を越えた協力体制のもとで最先端の研究を遂行できる。
- (4) 学際領域や新しい学問領域を研究対象にすることができる。

などの特色を持たせている。また、教育プログラムとして専門フロンティアプログラムと複合フロンティアプログラムの2種類を設け、専門フロンティアプログラムは高度な研究と応用を担う人材の育成を目的とし、複合フロンティアプログラムは科学技術を広い視野に立って正しく評価し、社会に発信できる人材の育成を目的とする。

本大学院は本学建学の精神に則り、研究科の課程の目的に応じ、高度かつ専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与する人物を養成することを目的とします。

教育研究環境の整備について

- (1) 現状の恵まれた施設・設備環境の活用に加え、学部附置機関である「機器分析センター」「先端技術研究開発センター」、大学附置機関である「総合研究所」「情報メディアセンター」との緊密な連携を図る。
- (2) 文部科学省等の省庁及び公的機関が公募する、教育・研究プロジェクト採択に向けて部・研究科全体として取り組む。
- (3) 研究領域の拡大と大学院教育の多様化を目的とした制度として、独立行政法人・私立等の研究所と協定に基づき連携して研究教育を行う連携大学院方式を整備している。北里大学医学部とは独自に研究協力協定を結んでいる。これら他研究機関との人的・物的交流について、その成果を総括するとともに、さらなる連携について検討し、幅広い研究・教育システムを確立していく。
- (4) 教員個々の研究活動の充実を図るべく、自己点検・評価活動を充実させ、研究活動の公開と学部・専攻内の連携をさらに強化する。

(1)コース制度

理工学研究科は全体を1つの専攻（理工学専攻）とし、その中に8専修コースを設けています。専修コースの内容は以下のとおりです。

① 基礎科学コース :

自然科学の基礎である数理科学、理論物理学（物性、固体、宇宙など）、実験物理学（原子・分子、凝縮系、宇宙など）を中心とし、さらに数理生物学、複雑系、地震やレオロジー、量子多体系、量子制御、スピントロニクスなど新分野へも視野を広げています。これら専門分野の研究に携わることは自然科学の神髄に迫る醍醐味を味わうことでもあり、同時に、山積する多種多様で千姿万態な問題の中から本質的な課題を見つけ出し、モデルを構築してそれを解決する能力を養うことにも通じます。深い教養に裏打つけられた知性に富む、自立的、能動的、かつ直観力に優れた人材を涵養します。

② 化学コース :

物理化学、有機化学、無機化学の3分野で構成されています。分子および分子集合体を対象にして、化学本来の視点から研究を遂行し、幅広く深い化学的素養を身につけた人材を育成します。

③ 機能物質創成コース :

新機能を持つ物質の創成を中心に、物質設計やデバイス作製等の応用も視野に入れた総合的な研究を行うことを目的としています。物性物理学、固体化学、物質科学、薄膜工学、電気物性工学、表面科学等のいずれかを基礎におきつつ、分野を横断し幅広い知識に精通した、最先端の物質科学を行う人材を育成します。

④ 生命科学コース :

生命科学の急速な進歩は、新たな学問領域や産業領域を切り拓き、社会に対しても大きな影響を与えつつあります。生命科学コースでは、この広い領域の共通基盤となる知識を身に付け、生命現象を担う分子の構造、機能、およびその調節機構の研究を通して、自ら研究を進める能力の育成を目指しています。また、理工学専攻中の生命科学という特色を生かし、医薬品、食品などの既存分野だけでなく、生命科学領域をフロンティアとする新しい技術の開発にも貢献できる人材を育てたいと考えています。

⑤ 電気電子工学コース :

回路系から情報通信系、材料・物性系まで広い研究分野の研究室がそれぞれ大学院生を受け入れています。技術者、研究者を目指す者として、現代社会の基盤を支えるエネルギー分野、計測・制御分野、情報・通信分野、電子デバイス分野、材料・物性分野、またそれらの関連分野を対象に学習、研究を進めています。研究指導を重視し、それらを通して自ら考える能力、発見能力、問題解決能力の育成に努めます。技術者、研究者を目指す者として大学院で何を追究したいのか、目的意識をはっきりと持って進学してもらいたいと思います。

⑥ 機械創造コース :

本コースは、人類の持続的発展に役立ち、優れた機能を持つ機器やシステムを創造する研究者と技術者を養成します。すなわち、エネルギー・環境・安全・倫理に対する広い視野に立って、ものの形や機構と力学的作用を深く理解させる教育・研究を行います。さらに、機械に代表されるハードと知能に代表されるソフトとの融合を図り、進んだ情報処理能力、高度な計測技術と解析技術を修得させ、研究指導を通じて総合力を養い、自ら問題発掘と解決のできる学生を育てます。

⑦ 知能情報コース :

知能情報処理・ヒューマンインタフェース・ネットワーク・ロボティクスをキーワードに工学専門領域からビジネスまで広範囲に勉強・研究します。

話題のロボットやビッグデータやウェアラブルなどで世界をリードする理系出身者が専門知識を高める専門フロンティアプログラムと、また最新のネットワーク技術でビジネス開拓を目指すなど文系出身者を受け入れる複合フロンティアプログラムがあります。

いずれにおいても、希望する研究室の教員に事前にコンタクトをとり、疑問点についてディスカッションし、大学院での研究生活を実りあるものにするために、希望する研究分野をはっきりと説明し、進学希望者の意思を教員にはっきりと表明することが求められます。

⑧ マネジメントテクノロジーコース :

製品ライフサイクル、生産システム、サプライチェーン、経営技術、環境経営、品質経営などの現代社会が抱える問題領域について、データ分析技術、モデル化技術、最適化技術の観点に立ったそれらのマネジメントに必要な概念・方法論・システムの構築とその運用を学び、研究します。経営システム工学科のみならず他学科、他学部の卒業生の受け入れを歓迎する方針です。

(2)教育プログラム

理工学研究科では、各専門における深い知識、研究能力を持つ人材を育成する教育とあわせて、理工学分野の最先端の成果を正しく評価し、社会に発信できる人材を育成する教育をもめざしています。そのために、博士前期課程の教育プログラムとして、**専門フロンティアプログラム**と**複合フロンティアプログラム**の2種類を設けています。

専門フロンティアプログラムは従来の博士前期課程で実践されてきたように、各専門分野での最先端の研究をおこない、それに基づいた修士論文を提出して修了することをめざす教育プログラムです。これは理工学の特定の学問領域について深く学び、その分野の第一線の研究および応用を担う人材を育成することをめざすものです。

複合フロンティアプログラムは複数コースの専門分野を広く学び、社会・文化と科学・技術のかかわりなど科学・技術に関する調査・分析をまとめた修士論文を提出し、博士前期課程を修了する教育プログラムです。つまり科学技術の成果に対する社会活動面からの評価、および科学・技術に対する社会経済活動からのニーズ等を評価できる人材の育成が目的です。修了後の進路としては、例えばシンクタンク、ジャーナリズム等への就職を想定しています。

(3)コース兼任担当制度について

本学大学院理工学研究科の教員である者のうち、以下の①②の両方に該当する者は、コース兼任担当（コース兼任）の資格者です。本研究科教員は、入学試験合格者の希望に基づき、本研究科での資格審査で承認された場合、コース兼任担当者となることができます。

入学を希望する専修コースと、希望する研究指導教員の所属専修コースが異なる場合は、出願時に希望する研究指導教員に必ず申し出てください。

①専門とする研究が、他コースの研究分野を跨ぐ、境界領域に発展している教員。

②分野を跨ぐ境界領域での研究を主題とする学生が、研究指導を希望している教員。

博士前期課程に出願する者は、予め希望研究指導教員と面談し、その了解を得てどちらかの教育プログラムを選択しなければなりません。

【注 意】 公費外国人留学生として出願する場合は、P. 16以降の要項により出願してください。

[1] 外国人留学生とは

本学における外国人留学生とは、修学の目的をもって入国し、本学大学院が行う入学試験（第一次審査と第二次審査）に合格して、所定の手続きを経て入学を許可された正規学生をいいます。修業年限は、理工学専攻博士前期課程が2年間、理工学専攻博士後期課程が3年間です。なお、課程を修了した者は、修士（MASTER）、または博士（DOCTOR）の学位を取得することができます。

[2] 募集研究科・専攻(コース)・課程および学位の種類

研究科／専攻	コース	博士前期課程	博士後期課程
理工学研究科 理工学専攻	基礎科学コース 化学コース 機能物質創成コース 生命科学コース 電気電子工学コース 機械創造コース 知能情報コース マネジメントテクノロジーコース	修士（理学） または 修士（工学） 複合フロンティアプログラムは 修士（学術）	博士（理学） または 博士（工学）

【注 意】すべてのコースは、博士前期課程の教育プログラムで、「専門フロンティアプログラム」と「複合フロンティアプログラム」両方の研究指導教員で構成されます。

[3] 募集人員

各コースとも若干名。

[4] 入学時期・学年度

入学時期は4月とし、一学年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わります。

[5] 出願資格（研究指導を希望する教員からあらかじめ承認を受けた後、出願してください）

◎「出入国管理及び難民認定法」による在留資格「留学」を取得または更新できることが必要です。

博士前期課程・・・外国において学校教育における16年の課程を修了した者、および2018年3月までに修了見込みの者、または本大学院において大学卒業と同等以上の学力があると認めた者。なお、志願者はあらかじめ出願書類中の「研究計画書」を相模原事務部学務課宛に送付し、希望の研究指導教員から了承を得た後、出願してください。

博士後期課程・・・修士に相当する外国の大学の学位を有する者、および2018年3月までに取得見込みの者、または本大学院においてこれと同等以上の学力があると認めた者。なお、志願者はあらかじめ出願書類中の「研究計画書」を相模原事務部学務課に送付し、希望の研究指導教員から了承を得た後、出願してください。

【注 意】本大学院博士前期課程での講義・演習・実験・研究指導は日本語で行われますので、受講するに十分な日本語能力が必要となります。博士後期課程については、指導教員により、英語での研究指導が可能です。

[6] 選考方法

選考は第一次審査（書類審査）と第二次審査（筆記試験および口述諮問）に分けて行われ、この両方の審査に合格し、入学手続を完了した者が入学を許可されます。

第一次審査の結果は本人宛に通知発送します。また第二次審査の詳細（試験科目、日時、試験場等）もあわせて通知します。

- 【注 意】①「第一次審査合格通知書」は第二次審査の受験資格を認める証明書であり、第二次審査に合格しなければ「合格証明書」は発行しません。
②「第一次審査合格通知書」の再交付および有効期間の延長は認めません。
③第一次審査合格後の志望研究科・専攻の変更は認めません。

1. 第一次審査

(1) 出願受付期間

第一期出願期間

2017年8月11日（金）～9月1日（金）（受付最終日消印有効）

第二期出願期間

2017年12月1日（金）～12月21日（木）（受付最終日消印有効）

出願書類は、必ず郵送してください。

(2) 出願書類送付先および連絡先

〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1

青山学院大学相模原事務部学務課 理工学研究科担当

電話 042-759-6033 (ダイヤル)

(3) 出願時に必要な提出書類 (各1通)

1. 青山学院大学大学院外国人留学生入学志願票 (本学所定用紙。必ず本人が記入してください)
2. 写真1枚 (脱帽上半身、背景なし、 4×3 cm、最近3ヵ月以内に撮影、入学志願票に貼付)
3. 推薦書 (本学所定用紙)
4. 保証書 (本学所定用紙に保証人が署名したもの。保証人は保証能力を有するもので、原則として東京都内、またはその近辺に在住していることが必要です)
5. 最終出身学校の卒業 (修了) 証明書、または卒業 (修了) 見込証明書
6. 最終出身学校の成績証明書 (日本語または英語に翻訳されたもの)
7. 博士前期課程を出願する者は日本語能力認定書 (本学所定用紙)
(日本留学試験240点以上の成績通知書、又は日本語能力試験N1合格の合否結果通知書のコピーを上記の書類の代わりとすることができます。)
8. 入学検定料「収納証明書・振込通知書」貼付用紙
入学検定料の「収納証明書」〈コンビニエンスストア・クレジット支払の場合〉または「振込通知書(大学院提出用：金融機関の収納印の押されたもの)」〈銀行振込の場合〉を、収納証明書・振込通知書貼付用紙(本学所定用紙)に貼り付け提出してください。
*入学検定料の支払い方法については、11ページを参照してください。
9. 博士後期課程を出願する者は修士論文の要約 (日本語または英語に翻訳されたもの。ただし、出身大学において提出が義務づけられていない場合は不要) と研究業績リスト
10. 以下の①②いずれかを提出してください。
 - ①住民票 (「在留資格」、「在留期間等」、「在留期間等の満了の日」、「在留カード等の番号」が記載されたもの)
 - ②パスポートのコピー (氏名、国籍、在留資格の確認ができるページをコピー)
11. 研究計画書 (日本語で2000字程度。または英語でA4規格紙1枚程度)

【注 意】 上記提出書類の5と6については、日本語または英語のものでない場合、公的機関による証明を受けた日本語または英語の訳文を付してください。なお、見込証明書を提出した場合、後日卒業 (修了) した時点の証明書を提出してください。

(4) 第一次審査料

35,000円

***出願期間内に振り込んでください。**

1. 入学検定料は下記のいずれかの方法でお支払いください。

・コンビニエンスストアでの支払い

「コンビニ端末での入学検定料支払方法」を参照のうえ、コンビニエンスストアのレジで入学検定料をお支払いください。その際発行される「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「収納証明書」部分を切り取り、収納証明書・振込通知書貼付用紙（本学所定用紙）に貼り付け提出してください。

・クレジットカードでの支払い

「クレジットカードでの検定料支払方法」を参照のうえ、入学検定料をクレジットカードにてお支払いください。決済完了後に通知されるURLよりログインし、取扱明細書をプリントアウトのうえ、「収納証明書」部分を切り取り、収納証明書・振込通知書貼付用紙（本学所定用紙）に貼り付け提出してください。

・銀行窓口からの振り込み

該当の振込依頼書（本学所定用紙）を使用し、郵便局・ゆうちょ銀行以外の日本国内の金融機関窓口で入学検定料を振り込んでください。振り込んだ際に受け取った、振込通知書(大学院提出用)を、収納証明書・振込通知書貼付用紙（本学所定用紙）に貼付し、出願書類として提出してください。（ATM及びインターネットバンキング等は不可）。金額が訂正されたものや収納印がないものは無効です。なお、出願受付期間を過ぎてからは振り込みできません。また、窓口営業時間にご注意ください。

2. 出願受付後、入学検定料は返還いたしません。振り込んだが出願しなかった場合は、学務課にて返金の手続きをしてください。

【注 意】①提出書類に不備・不足があるとき、または受付期間を過ぎているときは、受理しません。

②一旦受理した提出書類、審査料等はいかなる理由があってもこれを返還しません。

2. 第二次審査（第一次審査合格者のみ）

(1) 受験手続

受験者が行う手続はありません。第一次審査の合格通知にて、受験番号を通知しますが、受験票は試験当日にパスポート等身分を証明する書類を提示して、相模原事務部学務課（青山学院大学相模原キャンパスB棟1階）で受け取ってください。受験票は合格発表日には必ず持参してください。

(2) 第二次審査日（試験日）・試験実施場所・試験科目

第一期 第二次審査日（試験日）：2017年10月7日（土）

第二期 第二次審査日（試験日）：2018年 2月3日（土）

審査（試験）実施場所：青山学院大学 相模原キャンパス

（備考）試験教室等の詳細は、試験当日にN棟1階の理工学研究科掲示板（P.27参照）に掲示します。

試験科目（博士前期課程）

	コース	試験時間	試験科目	備考
理工学専攻	基礎科学コース 化学コース 機能物質創成コース 生命科学コース 電気電子工学コース 機械創造コース 知能情報コース マネジメントテクノロジーコース	未定	専門・口述試問	詳細は第一次審査の結果の通知に合わせてお知らせします。

試験科目（博士後期課程）

	コース	試験時間	試験科目	備考
理工学専攻	基礎科学コース 化学コース 機能物質創成コース 生命科学コース 電気電子工学コース 機械創造コース 知能情報コース マネジメントテクノロジーコース	未定	口述試問	詳細は第一次審査の結果の通知に合わせてお知らせします。

(3) 合格発表日

第一期 合格発表日： 2017年10月13日（金） 13:00

第二期 合格発表日： 2018年 2月17日（土） 13:00

【注 意】①合格発表は、相模原キャンパスN棟1階の理工学研究科掲示板に掲示します。

②第二次審査結果は合格発表日に通知発送します。なお、合格者には合格証明書および第一次入学手続書類もあわせてお送りします。

[7] 入学手続

第二次審査に合格した者は、第一次入学手続および第二次入学手続を定められた期日までに、所定の入学手続納入金を納めるとともに、必要書類を提出し、入学手続きを完了してください。

下記期日以外は、理由のいかんを問わず受け付けません。

なお、期間中に入学手続をしない者は、入学を辞退したものと見なします。

入学手続書類送付先および連絡先

〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1

青山学院大学相模原事務部学生生活課 入学手続担当

電話 042-759-6004 (ダイヤル)

第一次入学手続

第一期 第一次入学手続締切日： 2017年11月24日（金）（消印有効）

第二期 第一次入学手続締切日： 2018年2月28日（水）（消印有効）

※第二次入学手続も同時に行います。

- 入学手続方法 : 郵送受付のみ
提出先 : 青山学院大学相模原事務部学生生活課
手続書類 :
1. 誓約書・保証書（本学所定用紙）
2. 振込通知書（第一次入学手続時納入金額）

第二次入学手続

第一期と第二期共通 第二次入学手続締切日：2018年2月28日（水）（消印有効）

入学手続方法 ： 郵送受付のみ
提出先 ： 青山学院大学相模原事務部学生生活課
手続書類 ：

1. 学籍資料票（本学所定用紙）
2. 学生住所登録用紙（本学所定用紙）
3. 卒業（修了）証明書および最終成績証明書（卒業（修了）見込で受験した者のみ）
4. 住民票または住民票記載事項証明書（出願時に提出した者は不要）
最近3ヶ月以内発行のものを提出してください。住民票（住民票記載事項証明書）は本籍の表示不要で、本人以外の部分は、必要ありません。
5. 学生証貼付用の写真(ﾀｲﾌﾟ 4cm×ｺﾞｺ 3cm) 1枚（所定の用紙に貼付のこと）

6. 振込通知書（本学所定用紙）
日本国内から手続する場合（大学院提出用：銀行の収納印の押されたもの）
（本学所定用紙）
日本国外から手続する場合は、^{えんだ}円建ての銀行小切手
7. 宛先記入ラベル（本学所定用紙）（学年初頭案内等郵送用）

- 【注 意】①研究指導教員は2017年度参考掲載のため、今後変更もあり得ることをご承知おきください。
- ②一旦提出した書類は、いかなる理由があってもこれを返還しません。
- ③入学手続書類に虚偽の記載があった場合は、入学後であっても入学資格を取り消します。

次は「**[8] 学費等納入額の内訳（2017年度参考）**」以降をご覧ください。

【公費外国人留学生として出願する場合は、以下の要項にしたがってください。】

[1] 公費外国人留学生とは

本学における公費外国人留学生とは、政府またはそれに準ずる機関から奨学金を支給される留学生で、本学大学院が行う書類審査に合格して、所定の手続きを経て入学を許可された正規学生をいいます。修業年限は、博士前期課程が2年間、博士後期課程が3年間です。なお、課程を修了した者は、修士（MASTER）又は博士（DOCTOR）の学位を取得することができます。

[2] 募集研究科・専攻(コース)・課程および学位の種類

研究科／専攻	コース	博士前期課程	博士後期課程
理工学研究科 理工学専攻	基礎科学コース	修士（理学） または 修士（工学） 複合フロンティアプログラムは 修士（学術）	博士（理学） または 博士（工学）
	化学コース		
	機能物質創成コース		
	生命科学コース		
	電気電子工学コース		
	機械創造コース		
	知能情報コース		
	マネジメントテクノロジーコース		

【注 意】すべてのコースは、博士前期課程の教育プログラムで、「専門フロンティアプログラム」と「複合フロンティアプログラム」両方の研究指導教員で構成されます。

[3] 募集人員

各コースとも若干名。

[4] 入学時期・学年度

入学時期は4月とし、一学年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わります。

[5] 出願資格（研究指導を希望する教員からあらかじめ承認を受けた後、出願してください）

博士前期課程・・・外国において学校教育における16年の課程を修了した者、および2018年3月までに修了見込みの者、または本大学院において大学卒業と同等以上の学力があると認められた者。なお、志願者はあらかじめ出願書類中の「研究計画書」を相模原事務部学務課宛に送付し、希望の研究指導教員から了承を得た後、出願してください。

博士後期課程・・・修士に相当する外国の大学の学位を有する者、および2016年3月までに取得見込みの者、または本大学院においてこれと同等以上の学力があると認められた者。なお、志願者はあらかじめ出願書類中の「研究計画書」を相模原事務部学務課宛に送付し、希望の研究指導教員から了承を得た後、出願してください。

【注 意】本大学院博士前期課程での講義・演習・実験・研究指導は日本語で行われますので、受講するに十分な日本語能力が必要となります。博士後期課程については、指導教員により、英語での研究指導が可能です。

[6] 選考方法

選考は、書類審査により行ないます。この審査に合格し、入学手続（第一次、第二次）を完了した者が入学を許可されます。審査の結果は第1期出願者は9月中旬に、第2期出願者は2018年1月中旬に本人宛に通知発送します。

【注 意】①「第一次審査合格通知書」の再交付および有効期間の延長は認めません。
②第一次審査合格後の志望研究科・専攻の変更は認めません。

(1) 出願受付期間（下記のいずれかの期間に出願してください）

第1期出願期間： 2017年8月11日（金）～9月1日（金）（受付最終日消印有効）

第2期出願期間： 2017年12月1日（金）～12月21日（木）（受付最終日消印有効）

出願書類は、必ず郵送してください。

(2) 出願書類送付先および連絡先

〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1

青山学院大学相模原事務部学務課 理工学研究科担当

電話 042-759-6033 (ダイヤル)

(3) 出願時に必要な提出書類 (各1通)

1. 青山学院大学大学院外国人留学生入学志願票 (本学所定用紙。必ず本人が記入してください)
2. 写真1枚 (脱帽上半身、背景なし、ﾀﾞｲ4cm × ﾎﾞ3cm、最近3ヵ月以内に撮影、入学志願票に貼付)
3. 推薦書 (本学所定用紙)
4. 保証書 (本学所定用紙に保証人が署名したもの。保証人は保証能力を有するもので、原則として東京都内、またはその近辺に在住していることが必要です)
5. 最終出身学校の卒業 (修了) 証明書、または卒業 (修了) 見込証明書
6. 最終出身学校の成績証明書 (日本語または英語に翻訳されたもの)
7. 博士前期課程を出願する者は日本語能力認定書 (本学所定用紙)
(日本留学試験240点以上の成績通知書、又は日本語能力試験N1合格の合否結果通知書のコピーを上記の書類の代わりとすることができます。)
8. 入学検定料「収納証明書・振込通知書」貼付用紙
入学検定料の「収納証明書」<コンビニエンスストア・クレジット支払の場合>または「振込通知書(大学院提出用：金融機関の収納印の押されたもの)」<銀行振込の場合>を、収納証明書・振込通知書貼付用紙(本学所定用紙)に貼り付け提出してください。
9. 博士後期課程を出願する者は修士論文の要約 (日本語または英語に翻訳されたもの。ただし、出身大学において提出が義務づけられていない場合は不要) と研究業績リスト
10. 以下の①②いずれかを提出してください。
 - ①住民票 (「在留資格」、「在留期間等」、「在留期間等の満了の日」、「在留カード等の番号」が記載されたもの)
 - ②パスポートのコピー (氏名、国籍、在留資格の確認ができるページをコピー)
11. 研究計画書 (日本語で2000字程度。または英語でA4規格紙1枚程度)

【注 意】 上記提出書類の5と6については、日本語または英語のものでない場合、公的機関による証明を受けた日本語または英語の訳文を付してください。なお、見込証明書を提出した場合、後日卒業 (修了) した時点の証明書を提出してください。

(4) 入学検定料

35,000円

1. 入学検定料は下記のいずれかの方法でお支払いください。

・コンビニエンスストアでの支払い

「コンビニ端末での入学検定料支払方法」を参照のうえ、コンビニエンスストアのレジで入学検定料をお支払いください。その際発行される「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「収納証明書」部分を切り取り、収納証明書・振込通知書貼付用紙（本学所定用紙）に貼り付け提出してください。

・クレジットカードでの支払い

「クレジットカードでの検定料支払方法」を参照のうえ、入学検定料をクレジットカードにてお支払いください。決済完了後に通知されるURLよりログインし、取扱明細書をプリントアウトのうえ、「収納証明書」部分を切り取り、収納証明書・振込通知書貼付用紙（本学所定用紙）に貼り付け提出してください。

・銀行窓口からの振り込み

該当の振込依頼書（本学所定用紙）を使用し、郵便局・ゆうちょ銀行以外の日本国内の金融機関窓口で入学検定料を振り込んでください。振り込んだ際に受け取った、振込通知書(大学院提出用)を、収納証明書・振込通知書貼付用紙（本学所定用紙）に貼付し、出願書類として提出してください。（ATM及びインターネットバンキング等は不可）。金額が訂正されたものや収納印がないものは無効です。なお、出願受付期間を過ぎてからは振り込みできません。また、窓口営業時間にご注意ください。

2. 出願受付後、入学検定料は返還いたしません。振り込んだが出願しなかった場合は、学務課にて返金の手続きをしてください。

【注 意】①提出書類に不備・不足があるとき、または受付期間を過ぎているときは、受理しません。

②一旦受理した提出書類、審査料等はいかなる理由があってもこれを返還しません。

[7] 入学手続

第1期出願合格者および第2期出願合格者は、それぞれの第一次手続と第二次手続を定められた期日までに、所定の入学手続納入金を納めるとともに、必要書類を提出し、入学手続きを完了してください。

下記時間以外は、理由のいかんを問わず受け付けません。

なお、期間中に手続をしない者は、入学を辞退したものと見なします。

入学手続書類送付先および連絡先

〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1

青山学院大学相模原事務部学生生活課 入学手続担当

電話 042-759-6004 (ダイヤル)

第一次手続(第1期出願合格者のみ)

第一次入学手続締切日： 2017年11月24日(金) (消印有効)

入学手続方法： 郵送受付のみ

提出先： 青山学院大学相模原事務部学生生活課

手続書類：

1. 誓約書・保証書(本学所定用紙)
2. 振込通知書(第一次入学手続時納入金額)

第一次手続(第2期出願合格者のみ)

第一次入学手続締切日： 2018年2月28日(水) (消印有効) ※第二次入学手続も同時に行います。

入学手続方法： 郵送受付のみ

提出先： 青山学院大学相模原事務部学生生活課

手続書類：

1. 誓約書・保証書(本学所定用紙)
2. 振込通知書(第一次入学手続時納入金額)

第二次手続(第1期出願合格者および第2期出願合格者)

第二次入学手続締切日： 2018年3月1日(水) (消印有効)

入学手続方法： 郵送受付のみ

提出先： 青山学院大学相模原事務部学生生活課

手続書類：

1. 学籍資料票(本学所定用紙)
2. 学生住所登録用紙(本学所定用紙)
3. 卒業(修了)証明書および最終成績証明書(卒業(修了)見込で受験した者のみ)
4. 住民票または住民票記載事項証明書(出願時に提出した者は不要)
最近3ヶ月以内発行のものを提出してください。住民票(住民票記載事項証明書)は本籍の表示不要で、本人以外の部分は、必要ありません。
5. 学生証貼付用の写真(ﾀｲﾌﾟ 4cm×3cm) 1枚(所定用紙に貼付のこと)
6. 振込通知書(本学所定用紙)
日本国内から手続する場合(大学院提出用：銀行の収納印の押されたもの)
(本学所定用紙)
日本国外から手続する場合は、^{えんだ}円建ての銀行小切手
7. 宛先記入ラベル(本学所定用紙)(学年初頭案内等郵送用)

- 【注意】①研究指導教員は2017年度参考掲載のため、今後変更もあり得ることをご承知おきください。
- ②一旦提出した書類は、いかなる理由があってもこれを返還しません。
- ③入学手続書類に虚偽の記載があった場合は、入学後であっても入学資格を取り消します。

[8] 学費等納入額の内訳（2017年度参考）

費 目		博士前期課程	博士後期課程	備 考
学 費	入 学 金	290,000円	290,000円	入学時のみ
	授 業 料	373,000円	257,500円	※半期分
	施 設 設 備 料	100,000円	100,000円	2年次 100,000円
	教 育 活 動 料	80,000円	110,000円	毎年納入
	小 計	843,000円	757,500円	
諸 会 費	後 援 会 費	5,000円	5,000円	毎年納入
	◎ 校 友 会 費	15,000円	15,000円	入学時のみ
	理 工 学 会 費	4,000円	4,000円	毎年納入
	小 計	24,000円	24,000円	
入学時納入金合計		867,000円	781,500円	(後期分授業料を含まず)
初年度納入金合計		1,240,000円	1,039,000円	後期分授業料を含む

◎ 印の校友会費（入会金10,000円、大学部会費5,000円）については、退学、除籍時に申請により、校友会本部事務局（校友センター）において全額の返還をうけることができます。

備 考

1. 学費の改定について

今後、経済情勢に応じ学費等の改定が行なわれた場合は、在学生にも改定後の学費等を適用することがあります。

2. 「入学辞退願」提出について

本大学院の入学手続を完了した後、やむを得ぬ事情により入学辞退することになった場合、「入学辞退願」が2018年3月31日16:00までに受理されたものは、入学金を除く納入金を返還いたします。詳しくは、合格発表時にお渡しする入学手続要項をご覧ください。

[9] 入学許可証の交付について

1. 入学許可書の発行目的

入学許可書は、主に「文部科学省外国人留学生学習奨励費予約者」や入学前の在留手続が必要となります。まず入学許可書が必要か確認してください。

[入学前の在留手続]

<ul style="list-style-type: none"> ・日本における在留資格を有していない者 ・在留資格「短期滞在」を有している者 ・在留資格「留学」へ変更する者 ・入学前に在留資格「留学」の在留期間の更新を行う必要のある者(2018年4月末日までに在留期限を迎える者) 	<p>在留手続時に、入学許可書の提出が必要です ※在留手続時に、本学作成の書類も必要なため、合わせてお送りします</p>
<p>在留期限が2017年5月以降の在留資格「留学」を有している者</p>	<p>入学許可書の発行依頼は不要です 在留期間更新の申請は入学後にお知らせします</p>

2. 入学許可書の申し込み方法

【入学許可書が必要な合格者へ】

入学手続を完了した者に入学許可書を発行します。入学手続を完了後、国際交流センターの入学許可書発行の申し込みフォーム(下記URL)から申し込んでください。

(国際交流センター「2018年4月に入学予定の正規外国人留学生の方へ」 URL <http://web.iec-aoyama.ac.jp/>)

申し込み後、メール受付完了の自動配信メールが届きますので受け取ったことを確認してください。入学許可書の発行は数日間要しますので、余裕を持って依頼してください。入学許可書は、2018年1月7日以降に順次発送します。予めご了承ください。

学費等の納入および入学手続書類の提出が済んでいることで入学手続が完了となります。学費等を納入しているにもかかわらず、入学手続書類を提出していない場合および入学手続書類に不備がある場合は、「入学許可書」を発行できません。また、JIS規格文字コードや常用漢字に含まれていない外字は、手書きで記入します。

【入学許可書の申し込みフォーム】(イメージ)

入学許可書発行依頼	
※全て必須入力項目です。第二次審査がある場合は、第二次審査の受験番号を入力してください。 ※学部・研究科名は、省略せずに入力してください。	
受験番号	<input type="text"/> (半角)
学部・学科/研究科	<input type="text"/> <input type="text"/> 学科/専攻
氏名(カナ)	姓 <input type="text"/> 名 <input type="text"/> (全角)
氏名(パスポート名表記)	姓 <input type="text"/> 名 <input type="text"/> (半角英字)
送付先住所	〒 <input type="text"/> - <input type="text"/> (半角) <input type="text"/> 都 <input type="text"/> 市 (都道府県) <input type="text"/> (住所・番地) <input type="text"/> (建物名)
電話番号	<input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/> (半角)
メールアドレス	<input type="text"/> (半角)



送信完了しました。

2017年1月7日以降順次発行しますので、しばらくお待ちください。

(受付完了の自動配信メールを送信しましたので、受け取ったことを確認してください。)

[9] 奨学金制度について

2014年度より、「奨学金制度」を実施しています。ただし、全員が採用されるとは限りません。

[10] 留学中の宿舎について

本学大学院には外国人留学生のための専用の寮・宿舎の設備はありません。入学許可の決定は、宿舎の有無には関係なく行われますので、アパート・下宿探しと入居手続はすべて自己の責任において行なってください。

連携大学院方式について

連携大学院方式とは、青山学院大学大学院理工学研究科（以下「大学院」という。）が国立・私立等の研究所等（以下「研究所」という。）と協定に基づき連携をして、研究所の研究者を本学の客員教授または客員准教授（以下「客員教員」という。）として委嘱し、大学理工学研究科の学生（以下「大学院学生」という。）は最新の設備と機能を有する研究所において、それらの客員教員から修士論文および博士論文の研究指導等を受け、大学院の研究領域の拡大はもとより新たな学問領域の確立を図り、大学院教育を多様化することを目的とした制度です。

客員教員（指導教員）

本学大学院において必要とみとめられる研究分野について、研究所の研究員を客員教員として委嘱します。

大学担当教員（副指導教員）

本大学院の専任教員がこれにあたり、客員教員に協力して、大学院学生の研究指導等について補完的役割を担います。

大学院学生

本学大学院に在籍し、課程修了に必要な単位は本学で修得する。研究指導は原則として研究所において客員教員から受けることとなります。

<2017年度連携大学院方式に伴う受入先>

独立行政法人 宇宙航空研究開発機構

独立行政法人 産業技術総合研究所

（注5）連携大学院方式による指導教員を希望する場合は、必ず出願前に該当する大学担当教員にお問い合わせください。なお、連携大学院方式による客員教員については、2016年度の教員組織を参考に記載しております。

教 員 組 織

大学院理工学研究科

研究科長 橋本 修

理工学専攻

専攻教務主任 長 秀雄

教務主任 (基礎科学コース)

山崎 了

教務主任 (化学コース)

長谷川 美貴

教務主任 (機能物質創成コース)

北野 晴久

教務主任 (生命科学コース)

阿部 文快

教務主任 (電気電子工学コース)

松谷 康之

教務主任 (機械創造コース)

熊野 寛之

教務主任 (知能情報コース)

Dürst, Martin J.

教務主任 (マネジメントテクノロジーコース)

熊谷 敏

1. 博士前期課程

理工学専攻

(☆印の付された研究指導教員は、「専門フロンティアプログラム」と「複合フロンティアプログラム」の両方担当しますが、その他は「専門フロンティアプログラム」のみの担当です。)

基礎科学コース

	研究指導教員	専門分野
教 授	杉原正 顯	数値解析
	竹内康 博	数理モデリング、生物数学
	☆谷口健 二	表現論、球関数
	中山裕 道	位相幾何学、力学系、微分位相幾何学
	西山 享	表現論、調和解析、離散数学
	前田はるか	原子物理学実験、量子制御、極低温リユードベリ原子・プラズマ
	☆松川 宏	摩擦の物理
	松本裕 行	確率論、微分方程式論
	☆吉田篤 正	宇宙物理学、トランジェント天体
	准 教 授	市原直 幸
坂本貴 紀		高エネルギー・重力波天文学、重力波源の電磁波対応天体の探査・高エネルギー突発天体の観測的研究
☆増田 哲		非線形可積分系
山崎了		宇宙物理学、高エネルギー天文学
客員教授 (連携大学院方式)	吉田 哲 也	気球工学、宇宙粒子物理学、素粒子物理学実験 (大学担当教員は吉田 篤正教授)
コース兼任教授	☆古川 信 夫	物性理論、新規機能性物質の材料設計

	担 当 教 員	担 当 科 目
教 授	杉原正 顯	計算数学特論、離散数学
	竹内康 博	非線形数理、力学系
	谷口健 二	スペクトル理論、リー群論
	中山裕 道	位相幾何学、力学系
	西山 享	表現論、組合せ論
	前田はるか	量子力学特論Ⅱ
	松川 宏	量子力学特論Ⅰ
	松本裕 行	確率過程論、関数方程式論
	吉田篤 正	宇宙物理特論A、データ解析特論
	准 教 授	市原直 幸
坂本貴 紀		高エネルギー物理特論
増田 哲		関数方程式、非線形数理
山崎了		一般相対論、宇宙物理特論B
	研究指導教員共通	物理科学特別輪講(A~D)、数理科学特別輪講(A~D)、理工学特別実験・演習(A~D)

化学コース

	研究指導教員	専門分野
教 授	阿部二 朗	量子化学、物性化学、機能物質化学
	坂本章	物理化学、分子分光化学、構造化学
	杉村秀 幸	天然物合成化学、生体機能分子の設計と合成
	鈴木正	物理化学、レーザー光化学
	武内亮	有機化学、有機合成化学、有機金属化学
	☆長谷川美 貴	錯体化学、ランタニド錯体の光化学
准 教 授	☆中田恭 子	理論化学、固体物性理論、ナノ炭素材料

担当教員		担当科目
教授	阿部 二郎	量子化学特論
	坂本 章	構造化学特論
	杉村 秀幸	天然物化学特論
	鈴木 正	光化学特論
	武内 亮	有機化学特論
准教授	長谷川 美貴	錯体の材料科学特論
	中田 恭子	ナノ炭素材料の理論
	研究指導教員共通	化学特別輪講 (A~D)、理工学特別実験・演習 (A~D)

機能物質創成コース

研究指導教員		専門分野
教授	北野 晴久	物性物理学、超伝導と電荷秩序、マイクロ波物性
	澤邊 厚仁	固体電子物性、電子薄膜材料の合成と解析
	重里 有三	固体化学、高度な機能を有する無機薄膜材料の創成
	下山 淳一	固体欠陥化学、新機能材料創成、新超伝導物質開発
	☆古川 信夫	物性理論、新規機能性物質の材料設計
	☆三井 敏之	表面科学、生物物理学
准教授	春山 純志	メゾスコピック系の物理学、量子ナノデバイスの開発
客員教授 (連携大学院方式)	竹 歳 尚之	ナノ薄膜・界面の熱物性、薄膜・微小領域熱物性計測技術の開発 (大学担当教員は重里 有三教授)
客員准教授 (連携大学院方式)	八木 貴志	固体物理学、熱物性解析 (大学担当教員は重里 有三教授)
	山下 雄一郎	材料科学、固体物理学、材料データベース (大学担当教員は重里 有三教授)

担当教員		担当科目
教授	北野 晴久	固体物理学特論 I
	澤邊 厚仁	無機材料特論、電子物性特論
	重里 有三	無機薄膜工学特論
	下山 淳一	固体物理学特論 II
	古川 信夫	基礎固体電子特論 I・II
	三井 敏之	表面と表面計測
准教授	春山 純志	ナノサイエンス特論
	研究指導教員共通	機能性物質の基礎と応用、物質科学特別輪講(A~D)、物質工学特別輪講(A~D)、理工学特別実験・演習(A~D)

生命科学コース

研究指導教員		専門分野
教授	☆阿部 文快	分子生物学、生化学、生物物理学、圧力生理学、分子遺伝学
	☆諏訪 牧子	バイオインフォマティクス、計算生物学、生物物理学、ゲノム情報学、生命情報に基づくタンパク質の構造・機能予測
	☆田邊 一仁	生体分析化学、分子イメージング、生物有機化学、核酸化学
	富重 道雄	生物物理学、一分子計測、生体分子機械
	☆平田 普三	生化学、分子生物学、細胞生物学、発生生物学、生理学、脳科学、疾患、老化
コース兼任教授	☆宮野 雅司	脂質構造生物、応用の基盤となる構造生物学、水とタンパク質の構造科学
	☆三井 敏之	表面科学、生物物理学

担当教員		担当科目
教授	阿部 文快	最先端生命科学入門、微生物分子生物学、生命科学研究法 B
	諏訪 牧子	ゲノム情報科学、バイオインフォマティクス特論、生命科学研究法 A
	田邊 一仁	生体機能分析、生命機能化学、生命科学研究法 A
	富重 道雄	生体分子イメージング、生体分子機械論、生命科学研究法 A
	平田 普三	生化学・分子生物学概論、細胞生物学、神経科学、生命科学研究法 A
	宮野 雅司	タンパク質科学特論、構造生化学、生命科学研究法 B
	研究指導教員共通	生命科学特別輪講(A~D)、理工学特別実験・演習(A~D)

電気電子工学コース

研究指導教員			専 門 分 野
教 授	地 主	創	情報・通信理論
	野 澤 昭	雄	生体計測工学
	橋 本 修		生体・環境電磁工学、マイクロ波・ミリ波計測工学
	林 洋 一		パワーエレクトロニクス
	松 谷 康 之		アナログ・デジタル回路、集積回路
	☆米 山 淳		制御工学、システム理論
准 教 授	黄 晋 二		電子デバイス工学、結晶成長
	外 林 秀 之		光ネットワーク、光センシング
	洲 真 悟		結晶工学、光電子物性
担 当 教 員			担 当 科 目
教 授	地 主	創	情報工学特論、電子通信特論
	野 澤 昭	雄	福祉工学、生体電子工学特論
	橋 本 修		マイクロ波・ミリ波計測特論、環境電磁工学特論
	林 洋 一		パワーエレクトロニクス特論、モータードライブ特論
	松 谷 康 之		電子回路特論、アナログデジタル回路特論
	米 山 淳		電子制御特論、インテリジェント制御システム
准 教 授	黄 晋 二		半導体工学特論、電子物性・材料特論 I
	外 林 秀 之		信号処理特論、スイッチング回路特論
	洲 真 悟		電子物性工学特論、電子物性・材料特論 II、製品安全と社会制度
研究指導教員共通			電気電子工学特別輪講（A～D）、理工学特別実験・演習（A～D）

機械創造コース

研究指導教員			専 門 分 野	
教 授	大 石	進	精密工学、精密加工、工作機械、加工計測	
	☆小 川 武 史		材料強度学、疲労強度・破壊抵抗評価	
	☆熊 野 寛 之		熱・環境工学、伝熱工学、蓄熱技術	
	☆長 秀 雄		材料科学、超音波計測、非破壊評価	
	☆麓 耕 二		熱流体工学、エネルギー変換工学、生体熱工学	
	☆横 田 和 彦		航空宇宙原動機学、数値・実験・理論流体力学、ターボ機械学	
	☆米 山 聡		材料力学、実験力学	
	☆渡 邊 昌 宏		流体関連振動、流体構造連成力学、振動工学	
	☆菅 原 佳 城		機械力学、制御工学、航空宇宙工学、ロボット工学	
	客員教授 (連携大学院方式)	德 川 直 子		流体力学 (大学担当教員は横田 和彦教授)
		熊 澤 寿		構造力学、材料力学、航空宇宙工学 (大学担当教員は小川 武史教授)
後 藤 健			宇宙構造、材料工学、複合材料工学 (大学担当教員は米山 聡教授)	
客員准教授 (連携大学院方式)	森 治		宇宙機システム、宇宙機の動力学・制御 (大学担当教員は菅原 佳城准教授)	
担 当 教 員			担 当 科 目	
教 授	大 石	進	工作機械特論	
	小 川 武 史		材料工学特論	
	熊 野 寛 之		伝熱工学特論	
	長 秀 雄		超音波・レーザ計測特論	
	麓 耕 二		輸送現象特論	
	横 田 和 彦		流体力学特論	
	米 山 聡		材料力学特論	
	渡 邊 昌 宏		機械力学特論	
准 教 授	菅 原 佳 城		機械制御特論	
	研究指導教員共通			
			機械創造特別輪講（A～Dいずれか）、理工学特別実験・演習（A～D）	

知能情報コース

研究指導教員		専門分野
教授	☆Dürst, Martin J. ☆大原 剛 三 ☆小宮山 撰 ☆佐久田 博 司 ☆鷺 見 和 彦 ☆戸 辺 義 人 中 園 嘉 巳 ☆原 田 実 ☆山 口 博 明	ワールドワイドウェブ、ソフトウェアの国際化、ソフトウェア科学 発見科学、データマイニング、機械学習、社会ネットワーク分析 ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティ、音響学 モデルによる教育システム (Model Based Learning System)、応用設計情報システム パターン認識 (画像認識・画像理解・コンピュータビジョン)、セキュリティ (映像 セキュリティ・生体個人認証) 情報通信工学、実世界コンピューティング 生体情報学、神経生理学 自然言語処理、意味解析、自動要約、質問応答、テキストマイニング、自動プログ ラミング、対話ロボット ロボット工学、制御工学、メカトロニクス
准教授	☆Lopez, Guillaume F.	ウェアラブルコンピューティング、人間情報学
担当教員		担当科目
教授	Dürst, Martin J. 大原 剛 三 小宮山 撰 佐久田 博 司 鷺 見 和 彦 戸 辺 義 人 中 園 嘉 巳 原 田 実 山 口 博 明	ワールドワイドウェブ特論、ソフトウェア特論 発見科学特論、データサイエンス特論 ヒューマンインタフェース特論、バーチャルリアリティ特論 設計情報工学特論、情報発信スキル特論 先端コンピューティング特論、情報セキュリティ特論 インターネット特論、無線通信システム特論 生体運動学、身体性知能論 人工知能特論、知能ソフトウェア科学特論 非線形制御、ロボット工学特論
准教授	Lopez, Guillaume F. 研究指導教員共通	スマートメディア特論、ウェアラブルメディア特論 知能情報特別輪講 (A～D)、理工学特別実験・演習 (A～D)

マネジメントテクノロジーコース

研究指導教員		専門分野
教授	☆石 津 昌平 ☆小野田 崇 ☆熊 谷 敏 ☆宋 少 秋 ☆松 本 俊 之	品質情報システム、評価構造、品質管理技術、経営品質評価、品質管理教育 統計的機械学習、設備診断・サイバーセキュリティ、人工知能、ビッグデータ解析 経営工学、経営管理システム 組合せ最適化、ゲーム理論、オペレーションズ・リサーチ インダストリアル・エンジニアリング、改善技術、生産情報システム、環境教育・ 経営
准教授	☆水 山 元 ☆大 内 紀 知 ☆栗 原 陽 介 ☆日 吉 久 礎	生産システム工学、生産管理、集合知 イノベーション・マネジメント、技術経営学、データ分析 システム工学、情報工学、計測工学 オペレーションズリサーチ、数理工学、地理情報処理
担当教員		担当科目
教授	石 津 昌 平 小野田 崇 熊 谷 敏 宋 少 秋 松 本 俊 之 水 山 元	品質情報システム特論Ⅰ・Ⅱ 統計的機械学習特論Ⅰ・Ⅱ 経営管理システム特論Ⅰ・Ⅱ 数理計画特論Ⅰ・Ⅱ カイゼンマネジメント特論Ⅰ・Ⅱ 協働システム特論Ⅰ・Ⅱ
准教授	大 内 紀 知 栗 原 陽 介 日 吉 久 礎 研究指導教員共通	意思決定特論Ⅰ・Ⅱ システム工学特論Ⅰ・Ⅱ マネジメントにおける数理工学Ⅰ・Ⅱ マネジメントテクノロジー特別輪講 (A～D)、理工学特別実験・演習 (A～D)

担当教員	担当科目
兼担教授	Lenz, K. F. 知的財産
	Pagel, J. W. 科学技術英語 I・II
	Reedy, D. W. 科学技術英語 I (海外研修)
	菊池 純一 知的財産、製品安全と社会制度
兼担准教授	Robertson, C. E. 科学技術英語 I
講師	Nelson, F. M. 科学技術英語 I
	Taylor, T. D. バイオテクノロジー特論
	Wolff, G. J. 科学技術英語 I
	會田 英雄 物質科学特論
	浅見 真年 総合化学特論 I
	安藤 英一 フォトニック・デバイス特論
	伊敷 万太郎 製品安全と社会制度
	石田 知子 科学・技術と社会
	池田 岳 数理科学特論 II
	石崎 泰樹 生命科学特論 A
	石津谷 徹 総合化学特論 I
	伊藤 武彦 バイオテクノロジー特論
	生出 佳 実用 CAE アプリケーション特論
	大槻 道夫 物理科学特論 II
	奥津 哲夫 総合化学特論 II
	尾山 卓司 無機化学特論
	梶原 康宏 バイオテクノロジー特論
	印牧 直文 ハイテクビジネス特論
	上山 智 電気電子工学特論 II
	北川 和裕 センシングベンチャービジネス
	君島 正幸 電気電子工学特論 I
	木元 克典 生命科学特論 A
	久保 貴哉 総合化学特論 II
	今間 俊博 マルチメディア工学特論
	佐々木 哲也 リスクベース安全工学
	佐藤 英一 宇宙構造材料工学特論
	島田 行恭 リスクベース安全工学
	杉西 優一 経営工学特論
	杉原 稔 生命科学特論 B
	鈴木 壯兵衛 知的財産
	関口 敦 総合化学特論 I
	高橋 ゆかり 環境科学
	舘野 佐保 科学技術倫理
	田中 利一 経営工学特論
	田邊 資明 総合化学特論 II
	谷口 唯成 インテリジェント制御システム
	土屋 憲彦 結晶化学特論
	手嶋 政廣 物理科学特論 I
	寺田 至 代数学特論
	時弘 哲治 解析学特論
	豊澤 康男 リスクベース安全工学
	所 健一 経営工学特論
	根岸 隆之 生命科学特論 B
	野中 正之 エネルギーシステム特論

服部	仁志	トライボロジーと先端設計技術
本田	善央	電気電子工学特論Ⅱ
増井	徹	科学技術倫理
丸橋	広和	幾何学特論
三浦	範大	製品安全と社会制度
三浦	吉孝	経営工学特論
森田	英利	バイオテクノロジー特論
山下	淳	画像処理特論
山中	卓	数理科学特論Ⅰ
吉田	洋一	知的財産
吉野	弦太	科学技術倫理
齋藤	剛	リスクベース安全工学

コース兼任担当制度について

本学大学院理工学研究科の教員である者のうち、以下の①②の両方に該当する者は、コース兼任担当（コース兼任）の資格者です。本研究科教員は、入学試験合格者の希望に基づき、本研究科での資格審査で承認された場合、コース兼任担当者となることができます。入学を希望する専修コースと、希望する研究指導教員の所属専修コースが異なる場合は、出願時に希望する研究指導教員に必ず申し出てください。

- ① 専門とする研究が、他コースの研究分野を跨ぐ、境界領域に発展している教員。
- ② 分野を跨ぐ境界領域での研究を主題とする学生が、研究指導を希望している教員。

2. 博士後期課程

理工学専攻

基礎科学コース

研究指導教員				専門分野
教 授	杉 原 正 顕	数理解析		
	竹 内 康 博	数理モデリング、生物数学		
	谷 口 健 二	表現論、球関数		
	中 山 裕 道	位相幾何学、力学系、微分位相幾何学		
	西 山 享	表現論、調和解析、離散数学		
	前 田 はるか	原子物理学実験、量子制御、極低温リユードベリ原子・プラズマ		
	松 川 宏	摩擦の物理		
	松 本 裕 行	確率論、微分方程式論		
	吉 田 篤 正	宇宙物理学、トランジェント天体		
	坂 本 貴 紀	高エネルギー・重力波天文学、重力波源の電磁波対応天体の探査・高エネルギー突発天体の観測的研究		
准 教 授	山 崎 了	宇宙物理学、高エネルギー天文学		
	吉 田 哲 也	気球工学・宇宙粒子物理学・素粒子物理学実験 (大学担当教員は吉田篤正教授)		
客員教授 (連携大学院方式)	吉 田 哲 也	気球工学・宇宙粒子物理学・素粒子物理学実験 (大学担当教員は吉田篤正教授)		

担当教員	担当科目
研究指導教員共通	物理科学特別輪講 (E~J)、数理科学特別輪講 (E~J)

化学コース

研究指導教員				専門分野
教 授	阿 部 二 朗	量子化学、物性化学、機能物質化学		
	坂 本 章	物理化学、分子分光、構造化学		
	杉 村 秀 幸	天然物合成化学、生体機能分子の設計と合成		
	鈴 木 正	物理化学、レーザー光化学		
	武 内 亮	有機化学、有機合成化学、有機金属化学		
	長谷川 美 貴	錯体化学、ランタニド錯体の光化学		

担当教員	担当科目
研究指導教員共通	化学特別輪講 (E~J)

機能物質創成コース

研究指導教員				専門分野
教 授	北 野 晴 久	物性物理学、超伝導と電荷秩序、マイクロ波物性		
	澤 邊 厚 仁	固体電子物性、電子薄膜材料の合成と解析		
	重 里 有 三	固体化学、高度な機能を有する無機薄膜材料の創成		
	下 山 淳 一	固体欠陥化学、新機能材料創成、新超伝導物質開発		
	古 川 信 夫	物性理論、新規機能性物質の材料設計		
客員教授 (連携大学院方式)	三 井 敏 之	表面科学、生物物理学		
	竹 歳 尚 之	ナノ薄膜・界面の熱物性、薄膜・微小領域熱物性計測技術の開発 (大学担当教員は重里 有三教授)		
客員准教授 (連携大学院方式)	八 木 貴 志	固体物理学、熱物性解析 (大学担当教員は重里 有三教授)		
	山 下 雄 一 郎	材料科学、固体物性理論、ナノ炭素材料 (大学担当教員は重里 有三教授)		

担当教員	担当科目
研究指導教員共通	物質科学特別輪講 (E~J)、物質工学特別輪講 (E~J)

生命科学コース

研究指導教員		専 門 分 野
教 授	阿 部 文 快 諏 訪 牧 子	分子生物学、生化学、生物物理学、圧力生理学、分子遺伝学 バイオインフォマティクス、計算生物学、生物物理学、ゲノム情報学、生命情報に基づくタンパク質の構造・機能予測
	田 邊 一 仁 富 重 道 雄	生体分析化学、分子イメージング、生物有機化学、核酸化学 生物物理学、一分子計測、生体分子機械
	平 田 普 三 宮 野 雅 司	生化学、分子生物学、細胞生物学、発生生物学、生理学、脳科学、疾患、老化 脂質構造生物、応用の基盤となる構造生物学、水とタンパク質の構造科学
コース兼任教授	三 井 敏 之	表面科学、生物物理学
担 当 教 員		担 当 科 目
研究指導教員共通		生命科学特別輪講（E～J）

電気電子工学コース

研究指導教員		専 門 分 野
教 授	橋 本 修 野 澤 昭 雄	生体・環境電磁工学、マイクロ波・ミリ波計測工学 生体計測工学
	林 洋 一 松 谷 康 之	パワーエレクトロニクス アナログ・デジタル回路、集積回路
	米 山 淳 准 教 授 黄 晋 二	制御工学、システム理論 電子デバイス工学、結晶成長
	測 真 悟	結晶工学、光電子物性
担 当 教 員		担 当 科 目
教 授	野 澤 昭 雄	福祉工学
准 教 授	測 真 悟	製品安全と社会制度
研究指導教員共通		電気電子工学特別輪講（E～J）

機械創造コース

研究指導教員		専 門 分 野
教 授	大 石 進 小 川 武 史	精密工学、精密加工、工作機械、加工計測 材料強度学、疲労強度・破壊抵抗評価
	熊 野 寛 之 長 秀 雄	熱・環境工学、伝熱工学、蓄熱技術 材料科学、超音波計測、非破壊評価
	麓 耕 二 横 田 和 彦	熱流体工学、エネルギー変換工学、生体熱工学 航空宇宙原動機学、数値・実験・理論流体力学、ターボ機械学
	米 山 聡 渡 邊 昌 宏	材料力学、実験力学 流体関連振動、流体構造連成力学、振動工学
客員教授 (連携大学院方式)	徳 川 直 子	流体力学 (大学担当教員は横田 和彦教授)
客員准教授 (連携大学院方式)	後 藤 健	宇宙構造、材料工学、複合材料工学 (大学担当教員は米山 聡教授)
担 当 教 員		担 当 科 目
研究指導教員共通		機械創造特別輪講（E～J）

知能情報コース

研究指導教員		専 門 分 野
教 授	Dürst, Martin J. 大 原 剛 三 小 宮 山 撰	ワールドワイドウェブ、ソフトウェアの国際化、ソフトウェア科学 発見科学、データマイニング、機械学習、社会ネットワーク分析 ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティ、音響学

佐久田 博 司	モデルによる教育システム (Model Based Learning System)、応用設計情報システム
鷺 見 和 彦	パターン認識 (画像認識・画像理解・コンピュータビジョン)、セキュリティ (映像セキュリティ・生体個人認証)
戸 辺 義 人	情報通信工学、実世界コンピューティング
原 田 実	自然言語処理、意味解析、自動要約、質問応答、テキストマイニング、自動プログラミング、対話ロボット
山 口 博 明	ロボット工学、制御工学、メカトロニクス

担 当 教 員

担 当 科 目

研究指導教員共通

知能情報特別輪講 (E～J)

マネジメントテクノロジーコース

研究指導教員

専 門 分 野

教 授 石 津 昌 平	品質情報システム、評価構造、品質管理技術、経営品質評価、品質管理教育
小野田 崇	統計的機械学習、設備診断・サイバーセキュリティ、人工知能、ビッグデータ解析
熊 谷 敏	経営工学、経営管理システム
宋 少 秋	組合せ最適化、ゲーム理論、オペレーションズ・リサーチ
松 本 俊 之	インダストリアル・エンジニアリング、改善技術、生産情報システム、環境教育・経営
水 山 元	生産システム工学、生産管理、集合知
准 教 授 大 内 紀 知	イノベーション・マネジメント、技術経営学、データ分析

担 当 教 員

担 当 科 目

教 授 水 山 元

インターンシップ、海外インターンシップ

研究指導教員共通

マネジメントテクノロジー特別輪講 (E～J)

担 当 教 員

担 当 科 目

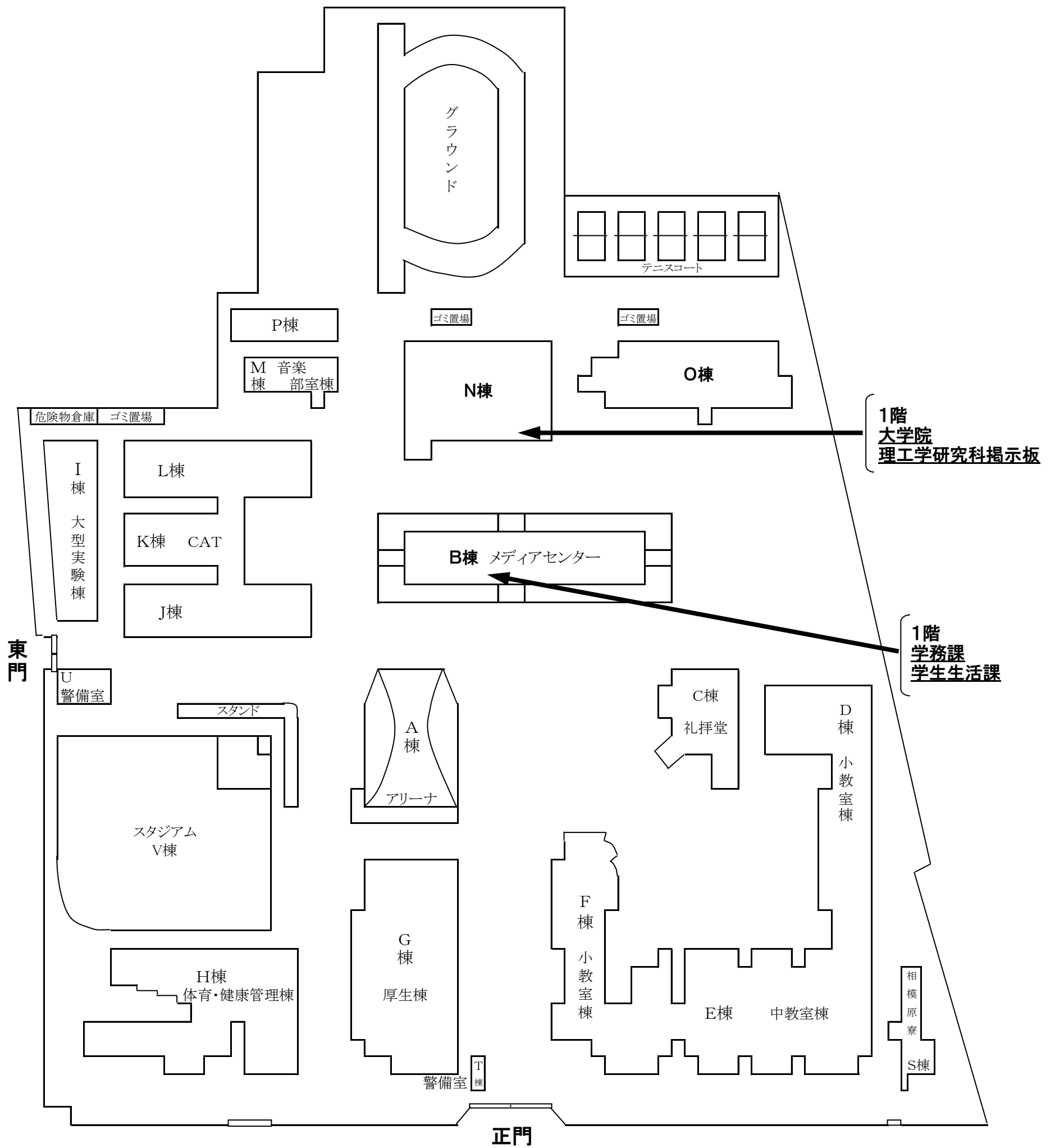
兼 担 教 授 Lenz,K.F.	知的財産
菊 池 純 一	知的財産、製品安全と社会制度
講 師 伊 敷 万 太 郎	製品安全と社会制度
石 田 知 子	科学・技術と社会
佐々木 哲 也	リスクベース安全工学
島 田 行 恭	リスクベース安全工学
鈴木 壯兵衛	知的財産
高 橋 ゆかり	環境科学
館 野 佐 保	科学技術倫理
豊 澤 康 男	リスクベース安全工学
増 井 徹	科学技術倫理
三 浦 範 大	製品安全と社会制度
吉 田 洋 一	知的財産
吉 野 弦 太	科学技術倫理
齋 藤 剛	リスクベース安全工学

コース兼任担当制度について

本学大学院理工学研究科の教員である者のうち、以下の①②の両方に該当する者は、コース兼任担当 (コース兼任) の資格者です。本研究科教員は、入学試験合格者の希望に基づき、本研究科での資格審査で承認された場合、コース兼任担当者となることができます。入学を希望する専修コースと、希望する研究指導教員の所属専修コースが異なる場合は、出願時に希望する研究指導教員に必ず申し出てください。

- ① 専門とする研究が、他コースの研究分野を跨ぐ、境界領域に発展している教員。
- ② 分野を跨ぐ境界領域での研究を主題とする学生が、研究指導を希望している教員。

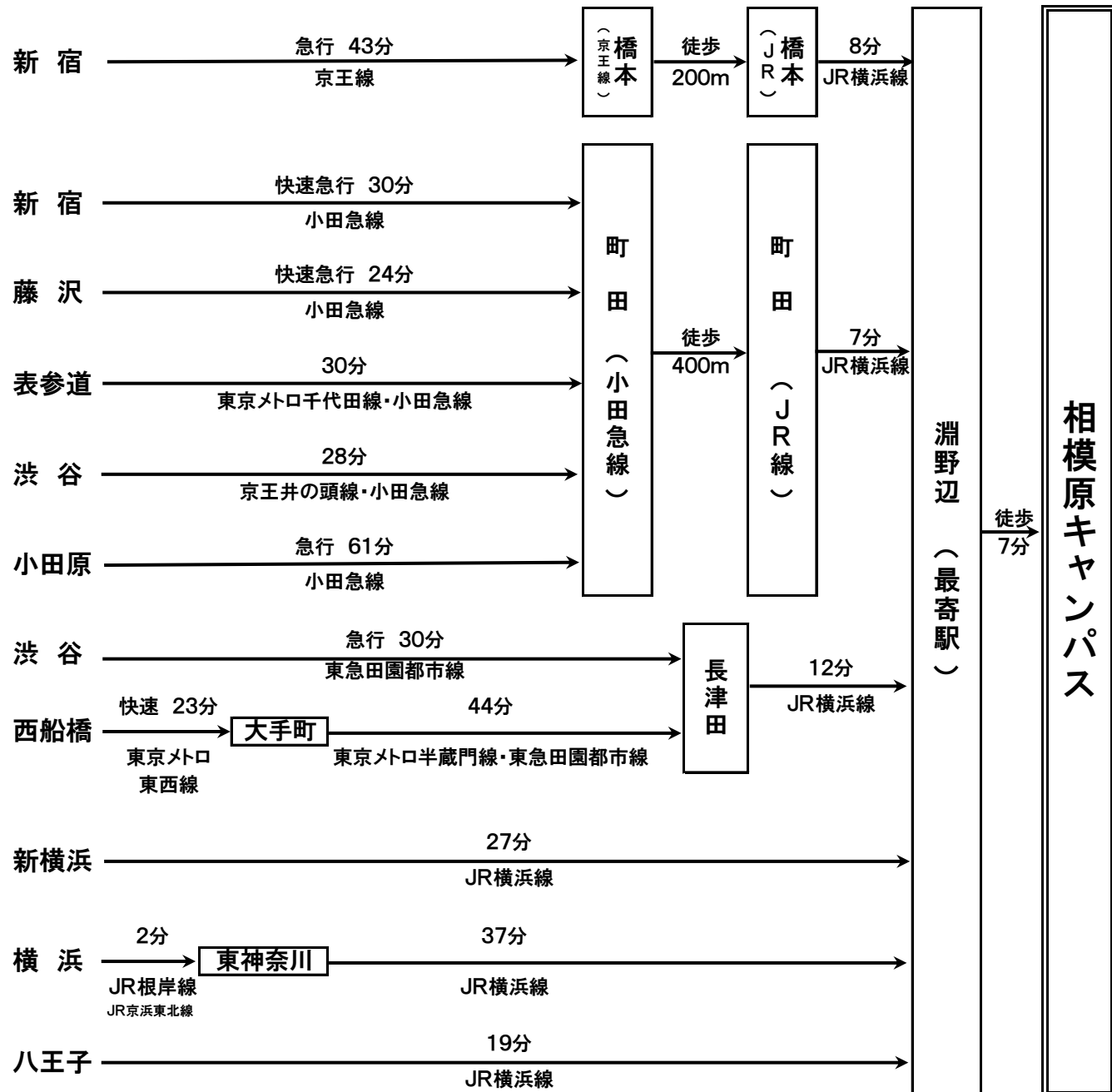
相模原キャンパス建物配置図



交通関係について

交通アクセス・所要時間

(パソコンソフト「駅すばあと」より。所要時間に乗換え時間は含まれていません。)



* 淵野辺駅は各駅停車駅です。特急、快速を停車しません。

[京王線を利用する場合] 京王相模原線橋本駅からJR横浜線橋本駅までは約200mです。また、朝夕の通勤・通学時間帯は混雑しますので、乗り換えに時間がかかることを考慮に入れてください。

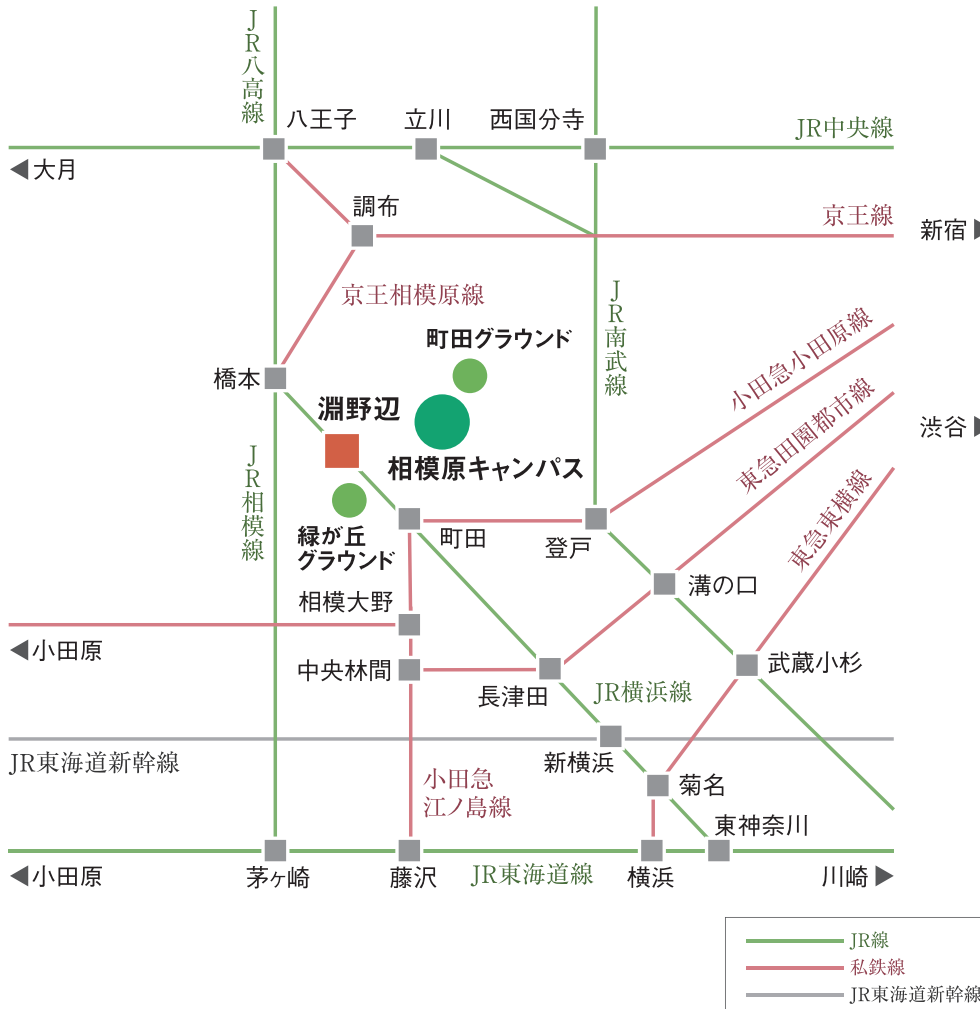
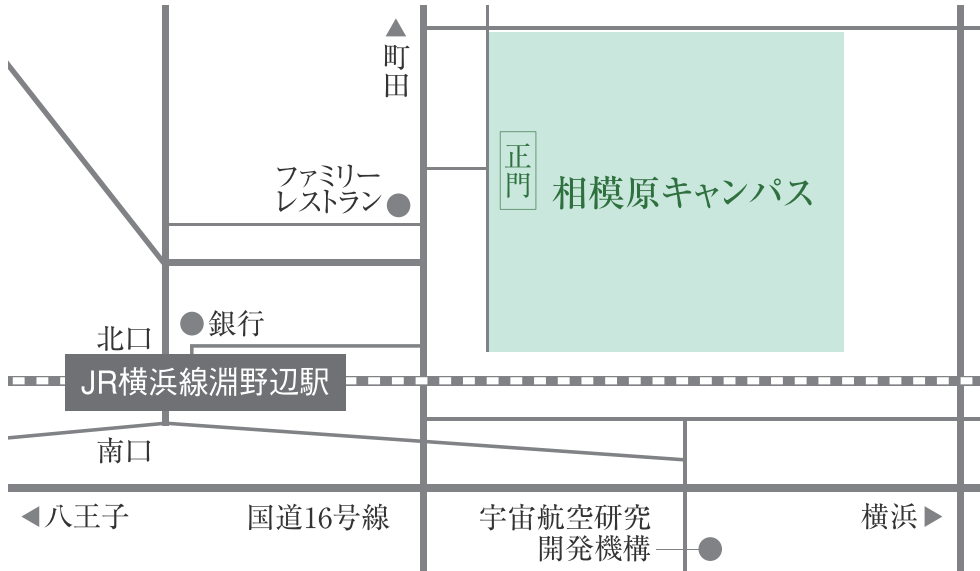
[JR横浜線を利用する場合] 各駅停車の多くは、東神奈川駅が始発となっています。横浜駅発着の各駅停車は少ないので、横浜駅を利用する方は注意してください。

[小田急線を利用する場合] 小田急線町田駅までは約400mです。また、朝夕の通勤・通学時間帯は混雑しますので、乗り換えに時間がかかることを考慮に入れてください。

相模原キャンパス

〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1

JR横浜線「淵野辺駅」より徒歩7分



コンビニ端末での入学検定料支払方法

下記のコンビニ端末にてお支払いください

1 お申込み

セブン-イレブン
マルチコピー機
<http://www.sej.co.jp>
最寄りの「セブン-イレブン」にある「マルチコピー機」へ。
TOP画面の「学び・教育」よりお申込みください。




学び・教育
↓
入学検定料等支払

LAWSON Loppi **MINISTOP Loppi**
<http://www.lawson.co.jp> <http://www.ministop.co.jp>
最寄りの「ローソン」「ミニストップ」にある「Loppi」へ。
TOP画面の「各種サービスメニュー」よりお申込みください。



「各種申込(学び)」を含むボタン
↓
学び・教育・各種検定試験
↓
大学・短大・専門、小・中・高校等お支払い

あなたと、コンビニに。
FamilyMart Famiポート
<http://www.family.co.jp>
最寄りの「ファミリーマート」にある「Famiポート」へ。
TOP画面の「申込・請求(学び・教育)」よりお申込みください。



申込・請求
↓
学び・教育
↓
各種(入学検定料等)お支払いサービス

Kstation クイックステーション
<http://www.circleksunkus.jp>
最寄りの「サークルK・サンクス」にある「Kステーション」へ。
TOP画面の「学び・申込」よりお申込みください。



「学び・申込」
↓
各種(入学検定料等)のお支払い

お申込みの大学 をタッチし、申込情報を入力して「払込票 / 申込券 / 受付票」を発券ください。

*画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。


2 お支払い

コンビニのレジでお支払いください。

- 端末より「払込票」(マルチコピー機)または「申込券」(Loppi, Famiポート)または「受付票」(Kステーション)が出力されますので、30分以内にレジにてお支払いください。
- お支払い後は「取扱明細書」(マルチコピー機、Kステーション)または「取扱明細書兼領収書」(Loppi, Famiポート)を受け取ってください。

*お支払い済みの入学検定料はコンビニでは返金できません。
*お支払期限内に入学検定料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。
*すべての支払方法に対して入学検定料の他に、払込手数料が別途かかります。

払込手数料	入学検定料が5万円未満	432円
	入学検定料が5万円以上	648円



3 出願

「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「取納証明書」部分を切り取り、入試要項などの指示に従って郵送してください。





貼付する場合、「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載のある欄は使用しないでください。「取納証明書」が黒く変色する恐れがあります。

【操作などのお問い合わせ先】 学び・教育サポートセンター <http://e-apply.jp/> *コンビニ店頭ではお応えできません。

クレジットカードでの検定料支払方法

24時間・365日いつでも支払いOK!

クレジットカードを利用して検定料のお支払いが可能です。  



PCで下記にアクセス

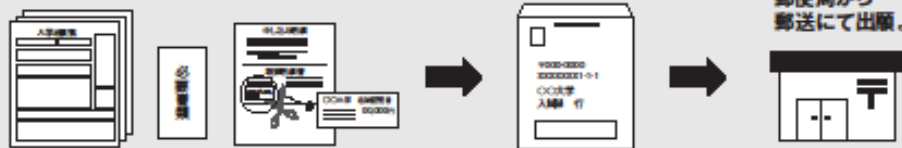
<http://e-apply.jp/e/gs-aoyama>

インターネット申込
クレジットカード決済

1. トップページ	「申し込む」ボタンをクリック
2. 研究科選択	研究科を選択してください。
3. 入試選択	受験される入試を選択して「次へ」ボタンをクリック
4. 留意事項	留意事項の内容を確認・同意して「次へ」ボタンをクリック
5. 基本情報入力	申込者本人の基本情報を入力し「個人情報取扱方法」に同意し「次へ」ボタンをクリック
6. 申込内容確認	申込された情報を確認し、問題なければ「申し込む」ボタンをクリック
7. 受付番号確認	受付番号(12桁)を控え、「次へ」ボタンをクリック (登録されたメールアドレスにも通知されます。)
8. クレジットカード情報入力	支払に利用するクレジットカード番号(16桁)等必要な情報を入力し、「クレジットカードにて支払う」をクリック <small>*お支払いされるカードの名義人は申込者本人以外でも構いません。</small>
9. 決済完了	完了後に通知されるメールアドレスに記載のURLよりログインいただき、取扱明細書をプリントアウトしてください。 <small>*メール通知が届かない場合は、TOPページの「申込内容を確認する」ボタンをクリックし、「受付番号(12桁)」「登録時のメールアドレス」「生年月日」でログインしてください。</small>

出願

印刷した「収納証明書」と必要書類を、出願用封筒に入れる。



【注意事項・よくあるお問合せ】

- 出願期間を入試要項でご確認のうえ、出願に間に合うよう十分に余裕をもってお支払いください。
- 支払最終日は23:59までにカード決済を完了させてください。
- 検定料の他に、払込手数料が別途かかります。
払込手数料(30,000円未満→手数料 490円、30,000円以上50,000円未満→手数料 860円、50,000円→手数料 980円)
- クレジットカードの名義人は、申込者本人以外でも構いません。但し、基本情報入力画面では、必ず申込者本人の情報を入力してください。
- メール通知が届かない場合は、TOPページの「申込内容を確認する」ボタンをクリックし、「受付番号(12桁)」「登録時のメールアドレス」「生年月日」でログインしてください。
- 一度お支払いされた検定料は、出願後は一切返金できませんのでご注意ください。
- カード審査が通らなかった場合は、クレジットカード会社へ直接お問い合わせください。

「クレジットカードでの検定料納入」について不明点がある場合は、トップページの「はじめに」から「お問い合わせ先」をご閲覧し、「学び・教育サポートセンター」までお問い合わせください。

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院スクール・モットー

青山学院大学大学院理工学研究科

〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1

電話 042(759)6033 (相模原事務部学務課)